



[NRS]

和 数値的評価スケール **英** Numerical Rating Scale

痛み、疲労など、自覚症状、あるいは、褥創の様子を、患者と医療者、あるいは医療者同士が共有できるように、客観的評価の尺度が必要となります。さまざまな方法がありますが、褥創などでは、写真なども一つの方法です。しかし、数値化することにより、変化をみていくことがより容易になります。

その一つの方法として用いられているのが、数値的評価スケール (Numerical Rating Scale : NRS) です。最近では、慢性疼痛やがん性疼痛の評価に頻繁に用いられています。

実際の評価方法として、痛みを例にとって示します。

下図のように、「0 : 痛みなし」から「10 : 最大の痛み」として、患者に、今感じている痛みの度合いを11段階から選んで、数値のあたるところに○をしてもらいます。

こうして数値化された痛みを、経過を追っていけば、薬剤の投与によって、痛みが軽減していく様子などが客観的に明らかとなります。

また、NRS 以外に、同様に自覚症状を客観的に評価するスケールとして代表的なものは、視覚的評価スケール (Visual Analog Scale : VAS)、表情評価スケール (Face Rating Scale : FRS)、カテゴリースケール (Verbal Rating Scale : VRS)、McGill 痛み質問票 (McGill Pain Questionnaire) などがあります。痛みの評価として使用する場合、VASは100mmの直線を示し、その左端を「痛みなし」、右端を「最大の痛み」として、患者自身が感じている痛みを、線上にマークする方法です。左端から、患者がマークした場所までを痛みの程度として表します。また、FRSは笑っている顔から、泣いている顔まで、6段階で提示し、患者が感じている痛みがどの表情に近いかを選択する方法です。

〈参考文献〉

- 1) 柏崎美保ほか. VAS, NRS, VRS, VDS, FRS, PRS など. In: 小川節郎編著. 痛みの概念が変わった. 東京: 真興交易医書出版部; 2008: p118-9.
- 2) 新田都子. ペインスケール, ずっと「3」と言われるけれど, このまま訊き続けていいの? 2009; Expert Nurse 26: 39-41.

〈関連学会等〉

日本疼痛学会, 日本緩和ケア学会, 日本臨床麻酔学会

〈類義語〉

numerical pain rating scale

〈参考 URL〉

1. がんの痛みネット (www.itaminai.net)
2. ファイザー製薬 (<http://toutsu.jp/pain/method.html>)

(国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター 副院長 溝口功一) 本誌274pに掲載

